



大野諏訪神社境内の相撲場



大野諏訪神社の池[昭和38年(1963)埋立]



地の利 水の利を生かした 農商混在の町、大野。

大野は万治年間(1658~1661)、金巻村の庄屋 森田半之丞、副役 浅妻茂助・大野嘉左衛門の3人が分村をはかったのが始まりとされます。これ以降、徐々に町化していき、小山家や木場の山際家の古文書によれば、金巻町を経て、18世紀初めには大野町と呼ばれるようになったと思われます。小山家の享保18年(1733)に書かれた古文書で「大野」という地名が初見され、寛保2年(1742)の古文書で「大野町」という地名が出てきます。



まち歩きの注意事項

- 町には多くの方が住んでおられます。大声で話をしたり、道路に広がりがすぎて、町民・車の通行に迷惑にならないようご配慮願います。
- どこから車が出てくるかわかりません。周囲にも注意を向け、交通事故に遭わないようお気をつけ願います。
- 思い出を残すため、写真撮影はご自由にどうぞ。ただし、住民プライバシーには十分ご配慮願います。

まち歩き
ガイドの
申し込み

TEL 025-264-7623
FAX 025-269-1660
MAIL nosei.w@city.niigata.lg.jp



担当/新潟市西区役所 農政商工課 (受付時間/平日8:30~17:30)
〒950-2097 新潟市西区寺尾東3-14-41

【編集・発行】 大野町まち歩き用地図作成検討会
大野校区ふれあい協議会、大野町連合自治会、黒崎商工会、
くろさきワーキングチーム、大野町まち歩きガイドの会

【協力】 新潟市(西区役所 農政商工課)

第2版/2026年3月



大野諏訪神社の玉橋

大野町 まち歩き ガイドマップ

ONOMACHI GUIDE MAP

大野町は信濃川と中ノロ川の

合流点にあるため

地の利 水の利を生かした在郷町として発展

舟運で栄えたこの地には 昭和40年(1965)頃までは

近郊から運ばれてきた

物資を売買する三・八市が盛大に開かれ

街なかには盛況を極めました



大野の吊り橋[大正5年(1916)架橋]



初代大野橋[大正14年(1925)架橋]



大野芸妓衆の発表会[於 大盛館]



中ノロ川とコウレンボウ[昭和40年(1965)頃]



大野の三・八市[昭和50年(1975)頃]



現 国道8号

大野町 鳥瞰図

[昭和10年(1935)当時]

大野町鳥瞰図制作の趣旨

この鳥瞰図はすでに忘れ去られようとしている私達の町の半世紀前の姿を後代に伝えるため、各町内の皆さんにご協力いただき制作いたしました。昔のことですので、記憶違い等により誤りがありましたらご容赦を願います。

制作時期/昭和55年(1980)12月 制作者/[諏訪町]宮田栄門



かぼちゃ電車[於 越後大野駅]



夏祭り[昭和35年(1960)頃]



9 川口の渡し場

現在、中ノ口川に3基架橋。ここに至るまで、木橋・吊り橋・渡船と幾多の変遷、人間ドラマがありました。



コウレンボウ(木造船)

10 梅八造船所

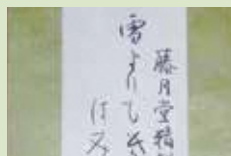
船大工が多く活躍し、造船所も栄えました。中ノ口川を利用した舟運が盛んであったことを示しています。



様々な色、形の砂時計

11 ワトラさんの砂時計

渡辺寅三郎さんの砂時計作業場。最盛期には、数多くの砂時計が全国に出荷されました。



下賜された掛け軸

12 藤月堂の天皇家下賜「掛け軸」

明治12年(1879)創業の菓子店で、現在は親子二代で営んでいます。菓子を皇室に献上し、掛け軸が下賜されました。



現在の太陽食堂

13 太陽食堂(喫茶店第1号)

「カフェ太陽」という大野町で最初の喫茶店でした。七区に昭和5年(1930)頃開店し、その後この地に移転。町の食堂として親しまれています。



事業発展を支えた中ノ口川の舟運

14 大万さん

大野町の豪商で、米蔵を20棟ほど、船も多く所有していました。北洋漁業や、東南アジア貿易の事業を展開しました。



川から見えるように設置された看板文字

15 料理屋「新潟屋」の看板

大野町民のみならず、舟で訪れる川向こうのお客様も多くおられ、芸妓さんのものでも評判で、たいそう賑わう料理屋でした。



3階建ての大盛館(だんごや)

16 大盛館と大野館

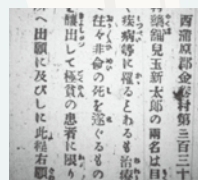
木造3階建ての大盛館は、料理屋と劇場がありました。道路反対側の外山畳店の2階にも、大野館という劇場がありました。



保管されている古文書の数々

17 こやま呉服店の古文書

タイムスリップの如く、今と昔をつなぐ場所。古文書から読み解く大野町の歴史の多くがここから始まりました。



ご二人の篤志を報じる新聞記事

18 児玉薬店(コダマ)

コダマ創業の地は大野町。児玉新太郎氏(初代)は谷井徳太郎氏とともに、極貧患者の施薬に尽力されました。



大野小学校校歌にも登場

19 聞念寺支坊(新々舎)

浄土真宗大谷派の本多山聞念寺支坊で、住民への説教の場でした。明治5年(1872)に開校した大野小学校の前身になりました。

至 白根

9 大野大橋

まち歩きモデルコース

- 約1.2km
- 約1.4km
- 約1.7km

● 現存しない建造物・施設

大野町 まち歩き ガイドマップ

ONOMACHI GUIDE MAP

1 糸権商店(軍手製造所)

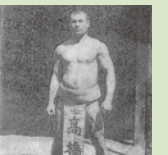
昔からの機屋で、かつてはさらしなどを製造販売しておりました。その後、昭和47年(1972)に軍手製造を開始しました。



軍手製造の様子

2 高助材木店と大関「高登」

4、5軒あった材木店はここ1軒建物のみが現存。大野町は2つの川の合流点で、材木の集積地として最適。この店は大関「高登」の生家です。



大関「高登」

3 漢方医(谷井家)

漢方医である谷井徳太郎氏の自宅。金80円を抛出し、極貧患者に施薬をしたり、大野校高等科設置をしたりと活躍されました。



かつての谷井家

4 綿買商人の定宿

昔から、繰り綿の集積地として知られ、江戸末期発行の「越後土産初編 物産見立取組」には、大野 綿と記載されています。



越後土産初編 物産見立取組

5 ささとう酒店

この店のご先祖は江戸末期発行の「越後酒道家一覽」に記載があります。大野諏訪神社前に店を構えていました。



明治6年(1873)交付の免許鑑札

6 3軒の風呂屋 (鶴の湯・月の湯・花の湯)

明治から昭和まで、多くの村民・町民に愛された人情溢れる風呂屋がありました。



花の湯[新田町]

7 雪屋(鈴木家)

昔は雪氷を販売し、夏の飲料用、料亭の鮮魚貯蔵用などに利用されました。現在は、鈴木味噌醤油麴店として製造販売しています。



暑中氷室より雪を切り出すの図

20 大野諏訪神社

元禄10年(1697)に創始され、慶應4年(1868)の堤防決壊で全てが流出したことも。現在も大野町の氏神様として親しまれています。



現在の大野諏訪神社

8 3本の小路 (長居・蒸気場・石屋)

変わらない小路の姿と変わりゆく時代。小路から生まれるストーリー。長居小路の呼称は、小路に沿って長屋が数多く連なっていたことに由来します。蒸気場小路は道の左右に商店が並んでおり、蒸気船の乗降客で賑わいました。石屋小路は旧堤防に石屋の作業場があったことから名付けられ、この小路の先からコウレンボウで多くの出征兵が戦地に向かいました。



長居小路



蒸気場小路



石屋小路

信濃川

9 信濃川大橋

至 新潟